

第119回 令和7年11月7日（金）

新しい仕事が増えるということについて。

アメリカのアマゾン本社で約1万5千人のリストラが発表されました。コロナで需要が高まり一時期社員を増やしたことに対する修正というのが主な理由ですが、背景にはAIによる業務効率化があります。

ピッキングと呼ばれる配送の仕分け業務がAIで大幅に人員縮小が可能になりました。6Gで配送業も無人運転になればさらにこの傾向は強まります。産業革命時の失業者増加に類似した動きになるかもしれません。

しかし産業革命では人手を必要とし、新たな需要を生んだ工場労働に多くの人材が流れました。職人は仕事を失いましたが、失業者が街にあふれることはなく、大量生産のシステムでより多くの人手が必要となったわけです。

産業構造の転換は従来の働き方では需要がない労働力に新たな選択肢を与えることがあります。ほとんどは特定の技能を必要とするものではなく、だれでもできる仕事でとにかく人手が欲しいという流れになります。

教育界を見ると、日本では明治期に始まった学制により、大きな教室で一斉に授業を行う形態が増えました。これは一律的な動きを求められる工場労働者を育てる目的があったといわれています。

現在ではビックデータを読み取って自分で課題を見出し、協働的に解決する能力が求められています。生徒個々の支援を重視した教育システムはどちらかというと江戸時代の寺子屋のほうに近いのかもしれません。

AI全盛の時代になり、勤務時間などが減ることはあるかもしれませんが、仕事自体が無くなってしまわないと思っています。人間は勤労をしないと不安になる生き物ですから、そこまでAIに依存する社会にはならないのではないかと考えます。

新しく生まれた仕事も新しい技術が必要とされるわけではなく、既存の能力を組み合わせで行う業務になると予想しています。余暇は確実に増えていくと思うので、自分の時間の使い方をより見直すことになりますし、そのための仕事も増えていくことになるでしょう。

未来をネガティブに見過ぎず、ポジティブに考えることも必要だと思います。